

Lorem Ipsum Dolor

就学に向けた支援

特別な支援が必要とされる子ども達の学校選択

特別な支援が必要な子ども→小学校で7.7%、その内1年生では9.8%

*特別支援学級：・知的障がい児学級（知的遅れあり）

・自閉症、情緒障がい児学級（知的遅れなし、自治体によってはない所も→通常学級を選択しないといけない）

[大きな集団だと生活の困難さが大きい場合]

*通級指導教室：言語障がい、自閉症・情緒障がい、弱視、難聴、LD、ADHDなどのある児童が対象

基本的には通常学級で授業を受け、必要に応じて週に半日程度通常の学級から離れて通う。

対人関係や社会性・行動面などの問題の改善と環境への適応を目標とし、自立活動を中心に必要に応じて各教科の補充指導を小集団または個別で行う。

*特別支援学校

知的障がい・・・八尾支援学校、東大阪支援学校、大教大附属特別支援学校、生野特別支援学校、東住吉特別支援学校

肢体不自由・・・東大阪支援学校、平野特別支援学校、東住吉特別支援学校、八尾市立特別支援学校

就学先決定までの流れ

- ①就学相談・・・相談員との面接、臨床心理士による検査、医師問診による状況把握
- ↓
- ②訪問観察・・・相談員らが園を訪問し、子どもの普段の様子を観察
- ↓
- ③就学指導協議会・・・特別支援学級設置校校長や学級担任など専門家による協議
- ↓
- ④保護者面接・・・協議会での判断を保護者に伝え、十分に話し合う
- ↓
- ⑤就学先決定

就学に向けて、子どもの状態を確認する視点

*知的能力の視点では

「田中ビネー検査」・・・IQが分かる（平均100、80以下だと発達がゆっくり）

発達の凹凸を見る検査もある

この差がとても大きいと「才能」「障がい」、小さいと「得意」「苦手」と捉える

